

平成27年度在宅医療・介護連携拠点事業
取組中間報告会

桜川市実施状況報告

- (1) H27年度末における事業の目標及び目標達成時の効果
- (2) 土台づくり事業
- (3) 在宅医療・介護連携推進事業について寄せられた質問
への回答
- (4) 中間のまとめ

平成27年12月18日
桜川市保健福祉部高齢福祉課

(1) H27年度末における事業の目標 及び目標達成時の効果

目標

市民が住み慣れた地域で安心して生活が出来るための医療・介護の連携を図るために多職種協働によるネットワークを構築し地域の問題点を把握する。

目標達成時の効果

医療、介護者等の多職種が顔の見える関係を構築し、定期的な協議により、地域の問題点を把握し共通理解することが出来る。

(2) 土台づくり事業

①多職種同士の顔の見える関係の構築のための「きっかけづくり」

ア 推進協議会

(H27.6.24 第1回推進協議会)

○委員数 14名

○開催日

第1回 6月24日 13名出席

第2回 11月18日 12名出席

第3回 2月末予定



○取組内容 事業内容の検討と進捗状況を確認し、市や実行委員会への助言を行った。

○成果 各団体の代表者が出席しており、在宅医療・介護の連携体制づくりを推進することに理解を得ることができた。

イ 実行委員会

(H27.8.20 第2回実行委員会)

○委員数 29名

○開催日

第1回 7月28日 26名出席

第2回 8月20日 25名出席

第3回 9月30日 26名出席

第4回 10月28日 23名出席

第5回 11月11日 24名出席

第6回 12月 9日予定

○取組内容

実行委員を4グループに分け、以下の取り組みを行った。

- 1 研修会グループ・・・多職種研修、実地研修の企画、実行
- 2 視察グループ・・・先進地視察の企画、実行
- 3 テキスト作成グループ・・・人材育成テキスト、連携ツール等の作成
- 4 講演会・シンポジウムグループ・・・講演会・シンポジウムの企画、実行



○成果

- ・グループ分けを行ったことで、それぞれの取組をスムーズに進行することが出来た。
- ・実行委員全員が全体の取組状況を把握できるよう、各グループの進捗状況を、毎回、実行委員会の中で報告した。

結果として、多職種研修や視察研修等はグループ員に限らず、多くの希望者が参加しており、実行委員の事業に対する意識づけが出来たと考えられる。

②地域課題を把握するための実態調査

○目的 市民及び医療・介護従事者に対してアンケートを行い、調査結果を分析し、在宅医療と介護の連携体制を構築するための課題を抽出する。

○調査期間 平成27年9月2日～9月18日

○対象者 3,331人 以下、内訳

・市民 3,000人

・医療系 169人(医師 46人、訪問看護師 15人、歯科医師 27人、
薬剤師 38人、PT・OT・ST 25人、MSW 5人、救急救命士 13人)

・介護系 64人(介護支援専門員42人、介護福祉士19人、
在宅介護支援センター3人)

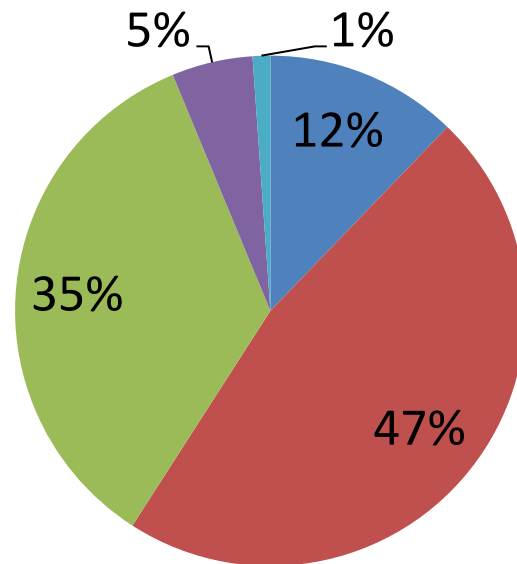
・民生委員 98人

○アンケート回収結果

対象者種別・職種	件数	配布 件数	回 収 件 数				回収率
			計	男	女	不明 (無回答)	
市民		3,000	1,268	569	685	14	42.3%
医師		46	37	27	9	1	80.4%
薬剤師		38	23	11	12	0	60.5%
歯科医師		27	16	13	3	0	59.3%
訪問看護師		15	15	0	15	0	100.0%
救急救命士		13	13	13	0	0	100.0%
民生委員		98	81	34	47	0	82.7%
PT・OT・ST		25	25	17	8	0	100.0%
MSW		5	4	1	3	0	80.0%
介護支援専門員		42	41	4	37	0	97.6%
介護福祉士		19	16	0	16	0	84.2%
在宅介護支援センター		3	3	0	3	0	100.0%
合 計		3,331	1,542	689	838	15	46.3%

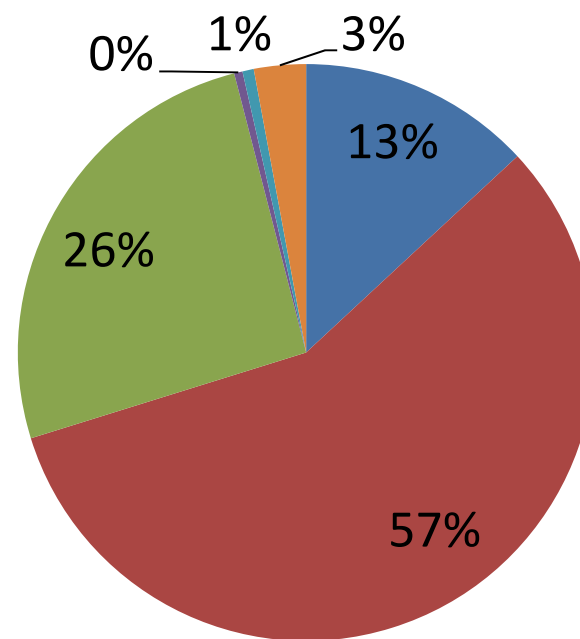
○アンケート回答結果(市民)

Q1.在宅医療について
ご存じですか



- よく知っている
- ある程度知っている
- 言葉だけは知っている
- 知らなかった
- 未回答

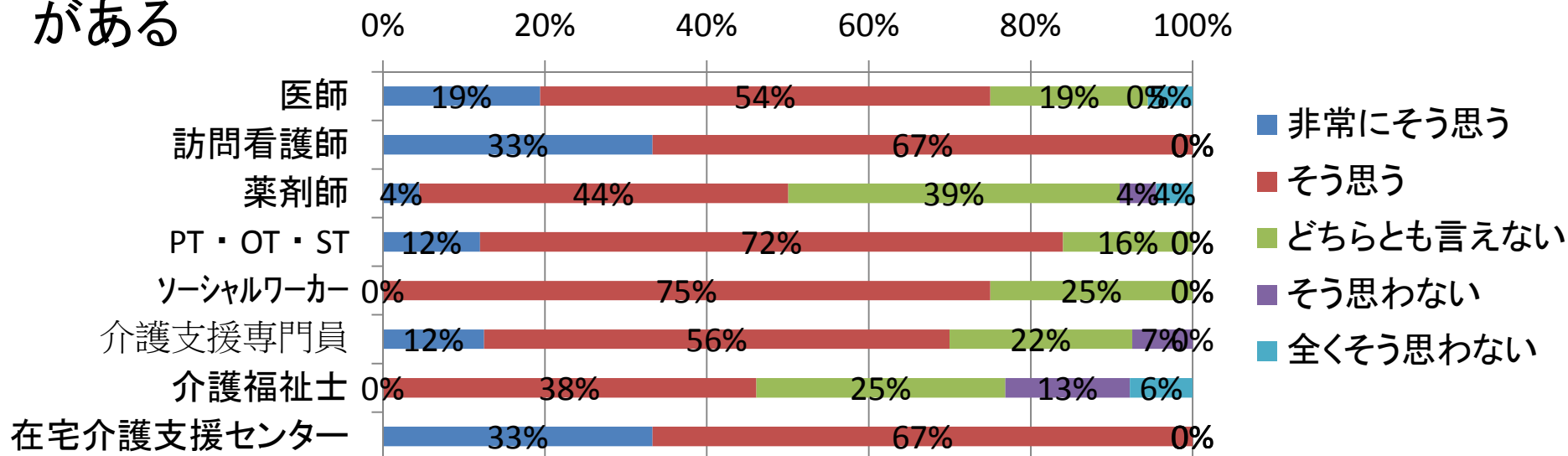
Q2.脳卒中やがんなどで
療養が必要になった場合、
在宅医療を希望しますか
また、その実現は可能だ
と思いますか



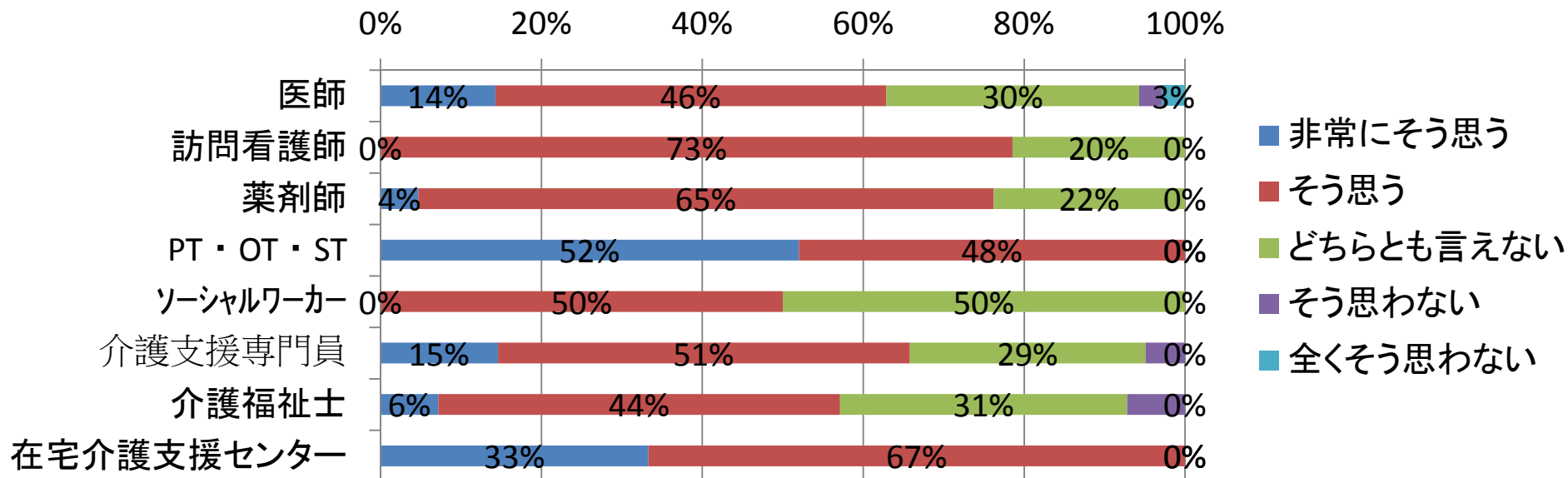
- 希望するし、実現可能だと思う
- 希望するが、実現は難しい
- 希望しない
- 現在、在宅医療を受けている
- 複数回答
- 未回答

○アンケート回答結果(専門職回答を職種別に比較)

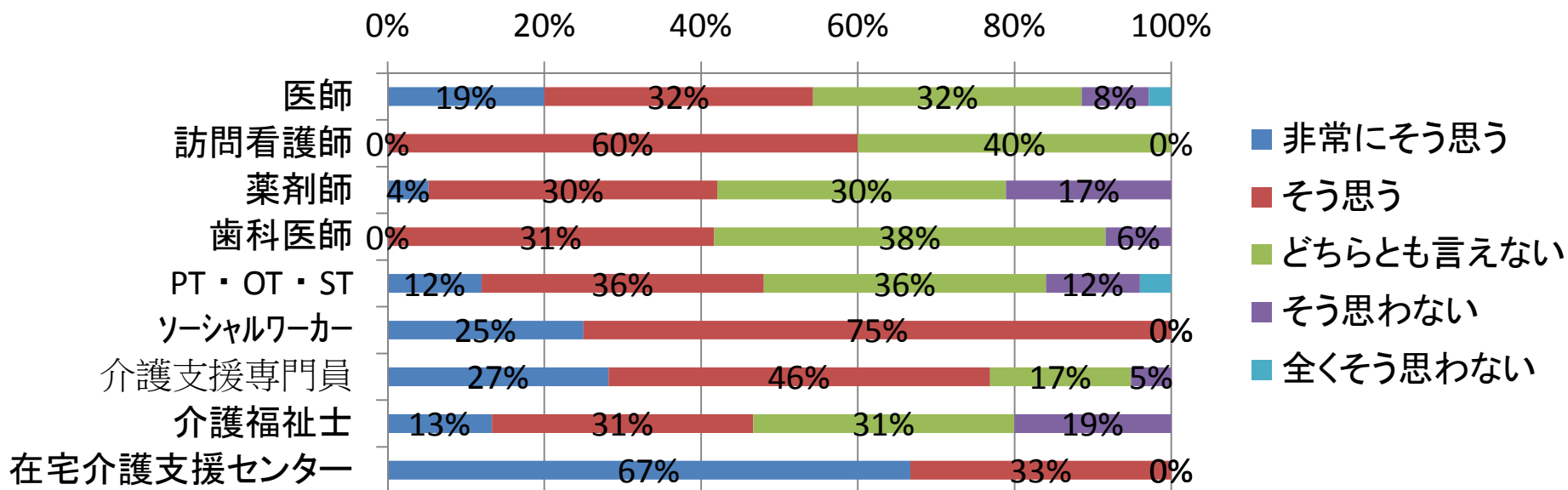
Q1.病院から在宅に移行する際、退院支援や調整で問題を感じることもある



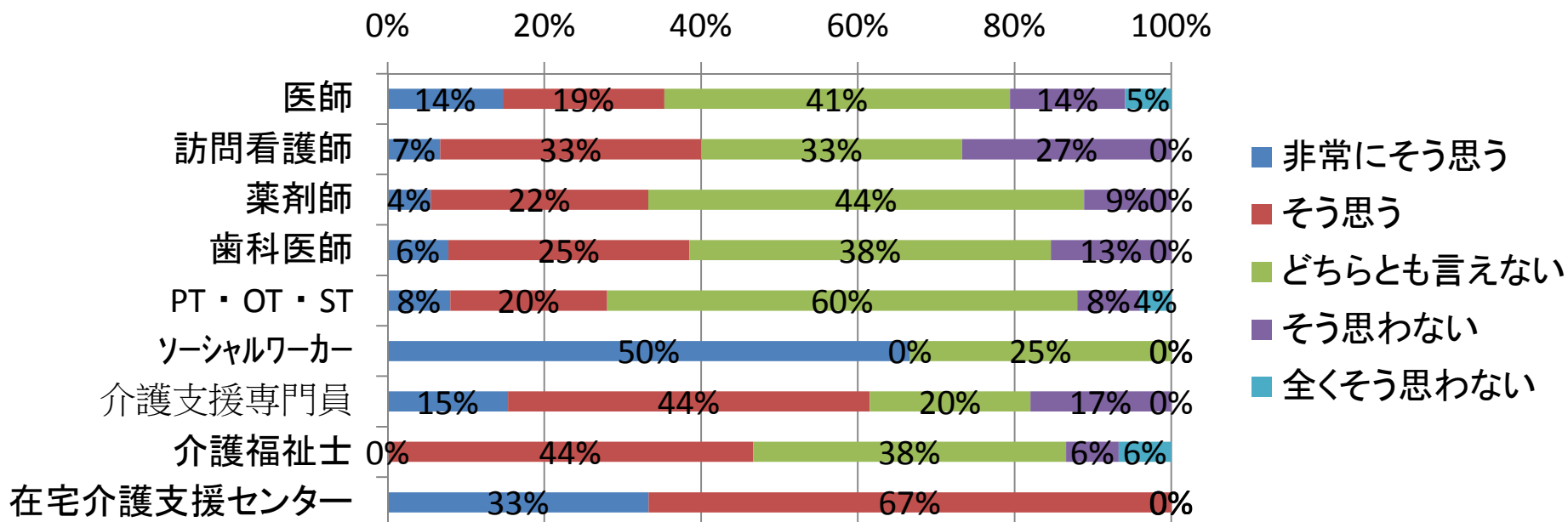
Q2.患者や家族に対する日常の療養支援で、問題を感じることもある



Q3.急変時の対応で問題を感じることもある



Q4.在宅での看取りについて問題を感じることもある



○成果

市民の回答結果から見えたこと

- ・「医療機関や介護施設より在宅で最期を迎えたい」という方が多いが、同時に「実際に在宅医療を望むことは難しい」と考えている方が多い。
- ・「医療や介護のことを良く知らない、直近の問題ではないため考えたことがない」という意見が多い。

⇒医療と介護の連携体制づくりを進める上では、市民への周知活動が重要

専門職の回答結果から見えたこと

- ・多職種間の連携不足や情報共有の手段が統一できていないこと、人材不足、知識向上の場が少ないと考えている方が多い。

⇒情報共有ツールの作成、研修会の開催が重要

③専門職種に対する資質向上のための「人づくり」

ア 先進地視察研修

○実施日 11月17日

○出席者 31名

- ・推進協議会委員 7名
- ・実行委員 18名
- ・事務局 4名
- ・その他 2名

○視察先 筑西市

○視察内容

- 1) 筑西市地域医療連携推進事業の経過について
- 2) 作成した資料について
- 3) 多職種連携について
- 4) 質疑応答



○参加者の声

- 桜川市でも資料を作成し、活用することで市民に浸透させていきたい。
- 市内の連携のみでなく、県西地区広域連携へと繋げていく取り組みに参画しようとしている実感が出てきた。
- 筑西市の現況を聞き、取組が本当に大変であり、かつ難しいものと良く分かった。

○成果

- 事業の進め方やツール作成について参考にし、桜川市でも応用していく。
- 筑西市の取組内容や実行委員の意見や感想を聞いたことで事業取組への意識が高まった。